

平成27年12月22日 新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議
新国立競技場の整備に係る財政負担について(抜粋)

(別紙 1)

都民への便益 (主なもの)

(1) 2020年東京大会の開催

新国立競技場は、2020年東京大会の開会式・閉会式、サッカー、陸上競技が行われるメインスタジアムとなる極めて重要な施設であるとともに、開催時には、多くの都民が大会の感動を体感できる機会を得る。

(2) 大会後のレガシー (スポーツの振興、観光の振興等)

- ・ 新国立競技場は、大会後には、都心に立地し、神宮外苑地区のスポーツクラスターの中核施設として、大規模なスポーツ大会やイベントが開催され、都民がスポーツを観戦する機会を増やし、都民のスポーツへの興味や関心の喚起につなげる。
- ・ また、合わせて、スポーツを行う都民を増やし、急速に進む高齢化社会の中で、健康増進効果も期待できる。
- ・ さらに、国際都市東京にふさわしいスポーツ環境が整備され、国際スポーツ大会等の誘致により、国際交流や観光の拠点ともなり、国際相互理解の促進や東京の魅力を世界に発信することにつながる。

(3) 周辺環境の向上

- ・ 新国立競技場は、屋内だけでなく屋外動線においても、利用者にとって機能的でわかりやすく、ユニバーサルデザインへの配慮がなされる。最寄駅 (JR千駄ヶ谷・信濃町、東京メトロ外苑前・青山一丁目・北参道、都営地下鉄国立競技場の各駅) から競技場までのアクセスが円滑になり、車両動線と歩行者動線は分離され、安全性が確保される。また、敷地の東西の高低差に対しても、車いす利用者等が無理なく移動可能となるなど、敷地全体でバリアフリーが確保される。
- ・ 敷地内に立体都市公園化される都立明治公園は、園路や広場、植栽などが再整備され、競技場利用者だけでなく、散策などで訪れる人々の憩いの場となるとともに、オープンスペースの整備により、新国立競技場などの集客性を踏まえた利用者の安全性、防災性の確保にもつながる。

(4) 防災機能の強化

- ・ 神宮外苑地区は、地震等の発災時には、新宿区、渋谷区、港区の避難場所となるが、新国立競技場の整備によりアクセシビリティが向上し、円滑な移動が可能となるため、避難者を受け入れやすくなる。また、スタ

ジアム観客席や諸室など、施設の屋内外で避難者を受け入れるスペースが確保される。

- さらに、新国立競技場には、従業員、施設利用者及び外部からの帰宅困難者受入に伴い必要となる飲食料等の備蓄（約8万人相当）のための防災備蓄倉庫が整備され、神宮外苑地区における防災拠点として機能強化が図られる。

(5) 交通対策

新国立競技場に駐車場が整備されることにより、円滑な交通の確保が図られる。

(6) 経済波及効果

新国立競技場を整備し、今後、様々なスポーツ大会やイベントが行われることにより、長期にわたって都内に多大な経済波及効果がもたらされる。